

インバウンド観光に関する政策提言案作成委員会

先進事例調査（しろうま荘）概要

1 日 時 令和元年11月15日（金）午前11時00分～12時00分

2 場 所 信州白馬八方温泉 しろうま荘

3 調査者

委員長 望月 勝

副委員長 古屋 雅夫

委 員 浅川 力三 白壁 賢一 桜本 広樹

早川 浩 猪股 尚彦 藤本 好彦

鷹野 一雄

欠席者

委 員 大久保俊雄

4 対応者 信州白馬八方温泉 しろうま荘 丸山俊郎総支配人

5 調査事項 インバウンド観光の推進について

6 主な質疑応答

問) ガイドブックが、立派である。この冊子はかなりしっかりしているが、これはどこから出ているのか。

答) 白馬ツーリズムという10ぐらいのホテルが、外国人を受け入れましようというチームをつくり、プロモーションに行ったりもしているが、そこが主導で各飲食店に毎年応募を出して、まとめてつくっている。外注はしているが、その取りまとめなどは、全部その白馬ツーリズムという組織で行っている。

問) 多分、お金のことを聞いていると思う。この中にスポンサーがいるから、店の人たちが、こういうところからまとめて出しているのか。

答) この各飲食店である。大体3万5,000円ぐらいから、今ちょっと上がって4万円ちょっとぐらいである。

問) 先ほどシーズンの偏りがあり、夏場はなかなかのことだが、あるテレビで、スキー場の施設を利用して、屋上へ露天風呂を設置してというのを見た。今はこの白馬の温泉というものは、どれだけの人気があるのか。夏場だって温泉も使うことは優にあるのだから、その辺、白馬の温泉がどこまで浸透しているのか。

答) 実は、白馬の温泉は全く浸透していない。ここ八方はいわゆる温泉が唯一ある場所だ。ほかもあるが、そんなに何軒もなく、ここ八方では100軒ぐらいが引いていて、スキー場が権利を持っている。まだ30年ちょっとしか歴史がない部分もあるが、泉質としては非常によく、日本で一番ぐらいである。しかし、やっぱりまちが温泉街みたいになっていないとか、温泉としてなかなか売っていないことがあって、そこは本当に課題ではあり、重要なコンテンツである。

山の上につくったのは温泉ではなくて、ただのスパだが、そういった絶景のところでは何か楽しめるというのは、日本人には受けている。ただ、まちが全然まだできていないので、それは本当に私たちの課題なので、どうにかしたいなという部分である。

問) 単価の上げ方というか、付加価値の乗せ方で、滞在日数をふやすということ以外に、短い期間で単価の上がる工夫は何かあるか。

答) やはり食事は結構大きい。日本だと、どうしてもラーメンとか安い食事だが、いいものをちゃんと出すということによって単価を上げることができるので、本当に凝った食事をつくるとか、地元のをきちんと使うというようなことをすると、単価を上げられる。あとは、そこならではの体験物は価値があるので、高いお金を取ろうと思えば取れる。いわゆる着物の着つけとかだと、どこでもできるが、ここにある自然を生かしたツアーみたいなのを組んだり、山案内人とか、何とかマイスターみたいなことをやるとか、地酒の工房に行って、つくり方を見るとか、おみそのつくり方を見るような、そういったものは結構単価を上げやすいものである。

問) グリーンシーズンのコンテンツとして、トレッキングやトレイルランなどもやっているのか。

答) 私もトレイルランの実行委員会の副委員長をやって、そういうのを立ち上げたり、この後、多分話が出ると思うが、岩岳でマウンテンバイクをまた始めたり、徐々に火がついていて、まさに今やっているところで、海外向けにも発信し、少しずつふえてきている。しかし、やっぱり冬みたいに爆発的にパウダースノーみたいなコンテンツになっていないので、爆発的にはふえていないのが現状だが、そこをコツコツやっているところという感じである。

問) 今のマウンテンバイクであるが、ウイスラーへ行ったら、外国人ですごいごった返していて、スキーのときと同じぐらいじゃないかという感じだった。ウイスラーも始めて30年近くになるので、やっと日本に最近入ってきて、これから夏場対策がいいなと思っていた。

ここに、貸し切りだったらオーケーだけど、お風呂に日本酒がトレイの上に乗っかって浮いている写真があるが、公衆衛生法上の違反だよね。

答) 貸し切りにしているときだけである。

問) これは、絶対に受ける。大体日本に来ると言われるのが、写真にはあったけど、行くとやってないじゃないかと。

答) うちの貸し切りの時間だけにして、特別許可を出させていただいている。

問) オーストラリアがすごく多いが、やっぱりオーストラリアは、主体は北海道なのか。

答) 大分それが白馬に今来ているみたいだ。オーストラリア人たちはアジア系が来始めてくると、違うところへ行きたがる傾向があるみたいだ。

問) オーストラリアは、ゴールドコーストあたりが一番多いということか。

答) どうしても都市として大きいので、シドニー、メルボルン、それからブリスベン、パースが多い。ゴールドコーストも非常に多い。やっぱり反対のコンテンツなので、向こうはビーチがあるので、山に行きたいし、私たちは山の間人なので、ビーチに行きたいみたいな感じである。

問) ここ宿泊はベッド・アンド・ブレックファーストで幾らか。

答) 冬の間は朝食のみだったら、大体お一人が1万500円ぐらいである。そんなに高くはない。二人で泊まると、1泊2万1,000円ぐらいである。

問) 夕飯を入れると幾らか。

答) 夕飯までつけるとプラス2,500円ぐらいになるので、大体1万3,000円ぐらいである。

問) 結構リーズナブルである。

答) どうしても民宿発祥のスキー宿なのでそうであるが、新たに白馬に今つくっているところは、みんな1泊朝食付きで2万円台とかにしている。

問) なるほど。大体ここの受け入れのキャパは、白馬村全部でどのくらいあるのか。

答) 宿泊施設としては、もう700軒ぐらい登録がある。ただ、そこも実態がつかめてないというのが現状である。

問) そうすると、それで何人ぐらい収容できるのか。ベッドなのか畳なのか。

答) ベッド数が、ちょっと正確な数字は忘れしまったが、宿数として登録はそのぐらいある。

問) 稼働率は50%を超えているのか。

答) 超えてないと思う。冬は超えているが、夏の方ががあるので、年間通して超えてないと思う。特にうちとかでも年間通したら70%いかないと思う。60%くらいなので、一般のところはもっと低いと思う。

問) そうすると、やっていけないとも出てくるということか。

答) そうである。だから、ベッド数でも、いつときはすごく足りなくなるが、そうじゃない時期が多いので、じゃあ果たしてこの足りなくなる時期があるから、そこにどんどん新しくつくる方がいいのか、それとも既存のところをどうにか生かして、そこを賄って、その数のままでいいのかというところでいうと、多分本来は後者だが、やっぱりそういうコントロールは我々ができるところではないので、難しいところである。

問) 伸びている観光地はカリスマがいる、リーダーがいる。だからリーダーとしていろんなところに指導していつてくれているから、ここが伸びているのだから、ぜひ、頑張っていたきたい。

答) さっき言った外国人の方たちと、うまく一緒にチームワークを発揮するというのはあるかもしれない。でもやっぱり長野県のDMOでつけてくれたが、DMOだから、さあやってくださいといっても、なかなかやっぱり決まっていけない。

問) DMOなんていうのは、大したものではないから、それよりも皆さんが実体験でやってきたことを生かしていくのが一番いい。現状をはかるためのDMOであって、先々を見るDMOじゃないから。

答) そこはそうだと思う。できれば、山梨のほうもそういう元気があるうちに外国人をうまく活用していただいて。

以上